

# ゲノム・遺伝子源解析センター

博士課程院生による 月例セミナー

とき 令和4年9月30日（金） 17:00～18:00

ところ 農学部 DS304

講演者 愛媛大学連合農学研究科 香川大学配属  
生産環境学専攻 浅海生産環境学研究室

濱崎裕矢 氏



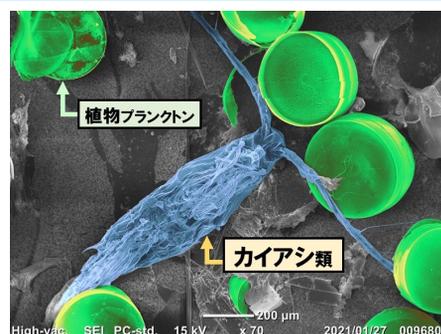
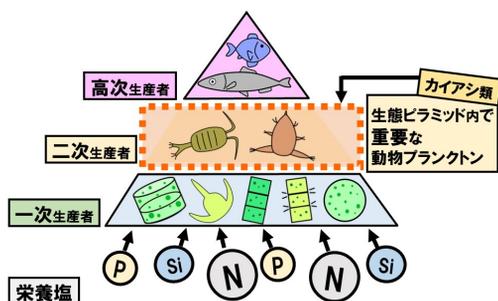
濱崎裕矢 氏

## 題目「DNA解析を用いたカイアシ類の調査」

### 概略

瀬戸内海では1980年代後半から現在に至るまで漁獲量の減少が続いているが、その原因は明確になっていない。ひとつの仮説として、法律規制により海域の栄養塩濃度の低下が起これ、一次生産者の植物プランクトンが減少し、それに伴い動物プランクトン、さらには魚介類まで及ぶ食物連鎖の伝播が考えられる。しかし、Chl a濃度を指標とした植物プランクトンに大きな減少傾向は見られていない。一方で、動物プランクトンについては1990年代以降、詳細な調査が行われておらず、漁獲量減少の要因を考える上で決定的にデータが不足している。演者らは東部瀬戸内海播磨灘において長期に亘って得られた栄養塩、植物プランクトン、そしてここ数年の動物プランクトン（カイアシ類：魚類を始めとした様々な高次生産者の主要な餌生物）に関する観測結果について研究背景として紹介する（演者ら 未発表含む）。

また上述の成果を踏まえた今後の展望として、次世代シークエンス（Miseq）を用いたメタバーコーディングおよびリアルタイムPCRによる定量的な調査（qPCR）への応用例について知見をまじえて紹介したい。加えて、それらの応用例に向けて着手している現在の取り組みや今後の課題等についても紹介する予定である。



主催：ゲノム・遺伝子源解析センター